第 17 回

こんな時代にロシア語のすすめ

「マイクテスト、通訳は黒田です」



通訳以外でマイクを握ることもありました。

黒田　龍之助

大学の授業でマイクを使うことがあります。もっともロシア語は受講生が 15 人前後、教室も声の届く小さな部屋なので必要ありません。ところが言語学は 100 人くらい集まりますから、講義室も大きく、どうしてもマイクを使わざるをえません。

いまではカラオケをはじめ、多くの人が日常的にマイクを使っています。でも自分の学生・院生時代を思い返せば、マイクを使うのは通訳のときくらいだった気がします。

旧ソ連からの団体旅行客を受け入れて、通訳したことが何回かありました。ナホトカから船で 300 名近くが来日して、日本の港にあちこち停泊しながら研修や観光をします。この 300 名を 7 台のバスに分乗させ、1 台ごとに 1 人の通訳がつきました。いや、正確にいえば 2 人で、日本側のロシア語通訳の他に、ソ連側の日本語通訳がいて、その 2 人が組んで仕事をするのです。わたしのような駆け出しにはベテランの日本語通訳をつけてくれるので、いろいろ勉強になることも多かったのです。

最初に組んで通訳をしたのは、ナホトカのセリョージャさんでした。日本語が上手で経験豊かな先輩で、とても頼りになりました。バスではいちばん前の左側の席に通訳 2 人が並んで座るのですが、ふっくらした彼が窮屈そうにしているので、わたしは窓側に身を寄せて、なるべく場所を空けました。車内では主にわたしがロシア語で話し、セリョージャさんがときどき補足してくれます。マイクは 1 つしかありませんので交替で使うのですが、セリョージャさんはわたしからマイクを受け取ると、それを右頬へ突き立てるように当てます。

「こうした話すほうが、息が直接に当たらないから、雑音がしないんですよ」

さすが先輩！　わたしはとても感心して、それ以来マイクを握るときはそうやっていました。もっとも今ではマイクの性能もよくなりましたから、言語学の講義中に右頬に突き立てることはありません。

団体の通訳をするときには、大人数が相手ですから、どうしてもマイクが必要です。東京タワーのエレベータ、六甲山のロープウェーなど、乗客がロシア人だけのときは通訳が交代でマイクを握ります。面白いことに、7 つのグループはそれぞれの通訳を誇りに思うらしく、共通の場面で自分の通訳が話すと喜ぶのです。

みなさま、六甲有馬ロープウェーへようこそ、通訳はおなじみ、6 号車のドラコーンチック（黒田のこと）で〜す。

こういう余計なことを挟むと、わたしのグループは他よりも盛り上がっていました。

日本語を使うこともありました。日本の旅行会社がチャーターしたソ連の旅客船では、乗船客がみんな日本人なのに、船のスタッフはロシア人。当然ながらことばに困るわけです。そういうときは、乗船している旅行グループに所属する通訳が交代で船内放送をおこないます。

お知らせいたします。第 1 シフトのお客さま、夕食の用意ができましたので、レストランまでお願いします。

船内のレストランは狭いので、乗船客全員が一度に食事をすることができません。そこで全体を 2 つのシフトに分け、時間差で食事を提供していたのでした。もっとも、船に長いこと揺られていると、だんだん気分が悪くなって食欲のない人が増えてきますので、最後のほうはシフトを分けるまでもないほどで、レストランはガランとしていました。

旅行グループは日本の港からナホトカまで船で行き、その後はそれぞれ旧ソ連各地方に分かれるのですが、2 週間後には再びナホトカに合流し、いっしょに帰国します。

同じ船に乗っていたロシア語通訳の中に、大学の先生がいました。国立大学に勤める教授でしたが、とても気さくな方で、しかもお酒が大好き。帰りの船では朝 10 時になりますと、「黒田くん、バーの開店時間です」といって、船内バーへいっしょに飲みに行きました。わたしは途中で失礼して他のことをやったりしていたのですが、先生はずーっとそこで飲みながら、バーのスタッフとロシア語で楽しそうに話しています。お酒にはかなり強い先生でしたが、数時間も飲み続ければさすがに酔ってしまいます。そういうときに船内放送の順番が先生に回ってきたりするものですから、

おひらへいらひます。らいいりひふとのおひゃくはま、ゆうひょくのよおいがれきまひたので、レスホランまれおねはいひます。

といった感じで、呂律が回りません。でもそれを咎める雰

囲気はなく、先生だいぶお飲みになりましたねと、みんなにやにやしています。心に余裕のある時代でした。

マイクを握って楽しい経験をしたことがあります。飛行機の機内アナウンスです。

そのアエロフロート機はチャーター便で、乗客は日本人しかいませんでした。小さな飛行機でしたが、わたしが率いるグループ以外にもいろいろな団体が乗っていたので、他にも日本人のロシア語通訳がいたはずです。ところがアエロフロートの客室乗務員さんは、なぜかわたしにちょっと来てほしいと頼んでくるのです。連れて行かれたのは機内放送するための狭いスペース。曰く、ロシア語のほかに日本語でも案内するのだけど、ぜひ代わりにやってほしい。渡されたわら半紙には、放送内容の日本語の原稿がキリル文字でタイプ打ちされていて、これがひどく読みにくい。アエロフロートの客室乗務員さんはまったく意味の分からない日本語を、キリル文字を頼りに発音するのでしょうか。それは負担が重すぎますよね。分かりました、喜んで代わりましょう。原稿にざっと目を通し、気持ちを落ち着かせ、いざ本番です。

「みなさま、本日はアエロフロート航空をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。当機はまもなく出発いたしますので、シートベルトを今一度お確かめください……」

そのあとは現地到着時間、機内サービスの予定など、飛行機に乗ればどこでも案内される内容。だんだん調子が出てきて、機内アナウンスっぽいつもりで、ちょっと鼻にかかった話し方にしてみたりして、ひとりでノリノリでした。

すると客室乗務員さんはさらに、救命胴衣の使い方もいっしょにやってくれというのです。小さな飛行機ではスクリーンもなく、デモンストレーションは実演しなければなりません。ハイハイ、こうなったら何でもやりますよ。日本語の説明だけでなく、客室乗務員さんがロシア語で説明するときは、自ら救命胴衣の使い方を乗客のみなさまの前で実演しました。救命胴衣を頭から被り、膨らみが足りない場合にはこうするんですよと、チューブから息を吹き込むマネをします。わたしのグループの人はびっくりしていたけど、後で笑いながらカッコよかったよといってくれました。わたしにしても、本当に得難い経験をしました。

とはいえ、別にマイクを握るのが好きなわけじゃありません。授業はむしろマイクを通さずに、自分の声で伝えたいというのが本音です。感染症が拡大していた頃は仕方なくオンラインで授業をやっていましたが、もう二度とやりたくありません。ときどきオンラインの講演会を依頼されることがあるのですが、すべてお断りしています。通訳としても、車内などではマイク越しですが、個人的な質問などは当然ながら肉声で答えていました。

そういえばこんなことがありました。わたしは他の通訳たちと打ち合わせをしていたのですが、気がつけば自分のグループが違う方に向かってぞろぞろと歩き出しているではありませんか。わたしはあわてて大声を上げました。

そっちじゃありませ〜ん！　右にまがってくださ〜い！

そして気づいたのです。自分が生まれて初めてロシア語で「怒鳴った」ことに。

生きていることばを使っていれば、大声を上げることだってあるでしょう。おかげで自分のロシア語が本物に一歩近づいた気がしました。これはマイクでは得られない経験ですよね。

＜日口交流情報＞

あいちロシア協会の総会（8 月 29 日）
京都産業大学の北上先生が講演

8 月 29 日、あいちロシア協会の第 2 回定期総会が名古屋駅前の会議室（オンライン併用）で開かれました。総会では、活動報告と活動計画、決算・予算などが承認され、その後、僧籍をもつ窪田裕也・事務局次長がクラスノヤルスク抑留者慰霊碑の写真の前で読経してシベリア抑留死没者慰霊祭が行われました。

総会後の講演会では、京都産業大学教授の北上光志先生が「ロシアと日本の文学作品の発話表現」の統計的解析結果の比較をもとに、明治以降に外国から文学というものを学んで取り入れた日本文学の、ある特徴について話をされました。

シベリア・モンゴル抑留犠牲者追悼の集い
今年も 8 月 23 日に開催（千鳥ヶ淵戦没者墓苑）

今年もシベリア・モンゴル抑留犠牲者追悼の集いが、東京・千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で、8 月 23 日に行われました。存命の抑留経験者の平均年齢が百歳を超え、遺族も高齢化している中で、シベリア抑留の実態解明や遺骨収集はまだ十分に進んでいません。自民党・公明党・維新の会など各政党の代表があいさつに立ち、実態解明と歴史の継承に力を入れ、遺骨収集を押し進める決意を表明しました。

ロシア語映画発掘上映会
ほぼ月 1 回のペースで開催、現代映画の上映も

Ace Square（守屋愛代表）が続けているロシア語映画発掘上映会は、最近ますます元気です。7 月 26 日『エメラルドシティの魔法使い』、9 月 26 日『島』、10 月 11 日『スペースドッグーベルカ』と、このところ月 1 回ペースの開催で、しかも最近は現代ロシア映画作品の上映にも手を伸ばしています。

今年 12 月と来年 1 月にもすでに上映会が予定されており、ロシア映画好きには目が離せません。

Ace Square → https://sites.google.com/view/acesquare